

## 第 72 回日本臨床眼科学会 ランチオンセミナー 14

2018 年 10 月 11 日 (木) 12:50 ~ 13:50

第 14 会場 JP タワー 5F  
カンファレンスルーム B

# これからの白内障検査 ～高い QOV を追求するために～

座長：西田 幸二 先生 (大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学 (眼科学) 教授)



白内障手術はトーリック眼内レンズや多焦点眼内レンズの登場、検査機器・手術機器の進化によって、より高い術後視機能の実現が可能になって来ました。

また、患者の視機能 Quality of vision(QOV) の術後要求は高くなってきており、術後の屈折精度の向上だけでなく、見え方についてのイメージを共有することで信頼関係を構築し、納得して手術を受けていただくことが術後の患者満足度の向上に繋がってくると考えられます。術前検査では従来の検査だけでなく視機能を評価する検査を行うことでより多くの情報を得られ、複数の選択肢を患者へ呈示することが可能になります。

本セミナーでは多彩な製品ラインナップを有する OCULUS 社製品の中から前田先生には前眼部解析装置である Pentacam について、有田先生にはドライアイ検査機能をもつ Keratograph 5M について、長谷川先生には多機能な視機能検査が可能な Binoptometer 4P についてお話していただきます。

本セミナーでこれからの白内障検査に対する理解をより深めて頂き、明日からの診療の一助になれば幸いです。



## 白内障手術でのペンタカム活用法

前田 直之 先生 (湖崎眼科 副院長)



## Binoptometer4P の使用経験

～距離別視力・コントラスト視力の活用法～

長谷川優実 先生 (筑波大学医学医療系眼科 講師)



## 次世代のドライアイ診療

～ Keratograph5M ～

有田 玲子 先生 (伊藤医院 副院長)

